

校長室だより

No. 15

平成30年7月13日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かざ  
加藤嘉一

## 山の学習で光る子供の心

7月3日(火)～5日(水)の3日間、5年生の子供たちは岡崎市少年自然の家(須淵町)で山の学習を行ってきました。

初日は天気がよく、子供たち待望のカヌー・水遊び体験ができ大喜びでした。2日目・3日目は残念ながら雨。ただ、少年自然の家のキャンプサイトには、雨天用の炊事場や広場があり、移動に不便さはありませんでしたが2日目の飯盒炊爨もキャンプファイヤーも十分行うことができました。

そして3日目。この日は備品の返却をし、オリエンテーリングを行う予定でした。しかし、こればかりは無理でした。備品の返却も時間がかかっていたこともあり、わたしたちは、班でゆっくり過ごす時間にあてることにしました。こうなると、子供たちは意気消沈するのが普通です。石川先生も子供の気持ちを察しながら「オリエンテーリングはできません。ただ班でゆっくり楽しみ、思い出をつくる時間にします。」と伝えました。する



【雨の中の飯盒炊爨 みんなで「おいしー!」】

と、「えー」と落胆の言葉を出しそうになったその瞬間、雰囲気を感じた何人かが、「イエーイ!」と場を明るくしたのでした。

なんと素敵な子たちかと思いました。事前指導からこの3日間まで「あたたかい拍手を大事にすること」「自分たちで今何をすべきか先を見て考えること」を指導し続けた5年の先生方の気持ちを見事に反映した瞬間でした。たくましさとは何か。マイナスをプラスに変える力とは、こういうところから生まれてくるのだと思います。自分の思うようにならないことや、現状に不満をもって過ごすのではない、幸せに生きる生き方を身に付けた子供たちが5年生にはたくさんいたのでした。山の学習の成果をこの瞬間感じ取りました。

郷土史 六ツ美の財産 一悠紀齋田お田植祭100周年記念行事実行委員会・記録編集担当の偉業一

学校に貴重な資料が届きました。六ツ美地区100年の歴史を記す写真資料です。これは、現在学校評議員をされている村松隆夫さんからいただきました。

実は、数か月前に村松さんからわたしに相談がありました。「六ツ美の歴史を集約した写真資料を形にする方法はあるだろうか」「文字記録を起こした部分に正確か心配がある」ということでした。よくよく聞くと、この資料は悠紀齋田御田植祭 100 周年記念行事実行委員会中部分科会で、村松さんを始め 4 人の方（小田健治さん、河原治賢さん、都築末二さん）が記録編集担当となり作られたものでした。この係は「六ツ美の 100 年の歴史を掘り起こし記録に残す」が命題でした。何をしていけばよいか苦悩した結果、以下のことをすることにしました。



【写真記録誌】

- ①神社・仏閣は必ず社記などに記録がずっと残されているので、すべて訪問し、そこにある記録を集約すること。
- ②同様に、六ツ美には石碑が多く残っており、そこには必ず地域の出来事や石碑が残された理由や歴史が刻まれているのでそれを集約すること。
- ③まつりや行事は地域の歴史や文化・風土を象徴するものであるから、それを集約し記録すること。

六ツ美地区の神社・仏閣はなんと 59 箇所、石碑等は 25 箇所です。これらをすべて写真に収めることにされました。歴史が刻まれている碑文などは、村松さんがコンピュータに取り込んだ写真を拡大しては確認し、すべて文字に打ち直しています。これらをすべて地図に落とすとともに写真と文章で 1 ページ 1 ページ紙面にされました。記録がよくわからなかったところは、市民センターや郷土資料館などへ通って歴史書を探ったり、「六ツ美村誌」を紐解いたり、新聞スクラップや地域の写真資料を集めていた親戚の家まで行き、明治から平成までの写真を 3 年かけてデータ化していました。

【写真記録誌】

- ふるさと六ツ美 1  
（神社・仏閣・文化財）
- ふるさと六ツ美 2  
（石碑・まつり）
- ふるさと六ツ美 3  
（変遷・行事）
- 悠紀齋田 100 周年  
お田植えまつり記録

わたしは大変貴重な資料だと考え、「一度市教委の社会教育課に見せ、学芸員などの専門家がいればアドバイスをもらおうとよいのではないのでしょうか」とお話ししました。村松さんが社会教育課に相談に行くと、学芸員もこの記録を残すことに賛同し、文字等のチェックに協力してくれました。

その記録集が完成したのです。村松さんが報告してくださり、校長室に 1 部保管させてもらうことにしました。同様に川澄幸浩さんが本校の歴史や「雲臺研究」（菜種の全国的な生産地になる元をつくった研究書）の写真データを残してくれています。郷土史をここまで作り上げる力に敬意を表します。（お断り：学校は、管理・収納面等を考慮し、意図をもって寄贈物の受入判断をしていることを御承知ください）